

## 全国大会を終えて

東海大学附属第四高等学校中等部

嶋村 圭太

3年連続で全国大会へと出場し、結果は昨年度の成績を越えられることができず、決勝トーナメント1回戦で敗退。目標を全国制覇と見据えていた中で、それを達成できず悔しい思いがありますが、同時に改めて全国レベルの厳しさを感じました。今大会を中心に振り返り、これからのチーム作りにもつなげていくことができればと思っています。

### <全市大会まで>

今年のチームは、まず昨年度の3年生が全国大会で3位入賞という結果で終わり、その悔しさを晴らしたいという思いと同時に、2年連続で全道大会を制覇していたので自分達もそれに続かなければいけない、という重圧がありました。その中で、新人戦では最後に決勝大会で何とか勝つことができたものの、札幌市予選や南大会では思うような結果を残せず、自信を持ちきれないまま春を迎えました。オールスター大会などでチームとしての活動が少なくなってしまうこともあり、春季大会でも苦しい戦いを強いられ、チームとしての仕上がりも一体感もないような状態でした。

少しずつ修正できてきたのは6月ごろからで、オフェンスにおけるパス&ランの意識やリバウンドの意識が根付き始め、攻撃に少しずつ厚みができてきました。攻撃に一定のリズムができると、ディフェンスにおいても少しずつではありましたが、粘り強さが出てきました。

その中で迎えた全市大会。公式戦で一度も勝っていなかった米里中との戦いでは、ほぼ勝ちを手にしたところで選手にも私自身にも油断が生まれてしまい、結果延長戦までもつれさせてしまいました。何とか延長戦でリードし、札幌市の大会で今シーズン初優勝を遂げたものの、全道大会までには内容的にもまだまだ課題が残りました。

### <全道大会>

札幌市第1代表として出場した全道大会。1回戦は旭川北門中との試合でした。第1試合で朝一ということもあり、序盤からプレスを仕掛けて奮い立たせると、ある程度のリズムを取ることができて、苦手な第1ピリオドをリードで終えることができ、そのまま勝ち上がることができました。2回戦の根室柏陵中との戦いでも、相手の勢いにペースを握られかけることがありましたが、攻撃的に展開することができました。ただし、守備において気が抜ける場面がいくつかあり、次の日への課題として残りました。

そして、全国をかけた準決勝・江別第二中戦。昨年まで決勝で対戦していた相手との決戦は、最後まで緊張感の高い展開となりました。相手エースの濱崎選手へのマークを強め

て、チームで守る意識ができましたが、やはり所々で徹底できない部分があり、隙をみせてしまいました。さらに、鍵となるオフェンスリバウンドをなかなか取ることができず、相手ゾーンプレスにも苦しめられました。しかし、プレスの1線目に対して怖がらず、しっかりスローインボールが収まるようになってからは何とかミスを減らすことができ、④三上の復調もあって最終的に逃げきることができました。決勝の米里中戦では、相手の疲れもあり、序盤の勢いがそのまま勝利につながり、何とか全道大会3連覇を達成することができました。選手達は嬉しいというよりは、安心したような表情で苫小牧の決戦の地を後にしていました。

#### <全国大会まで>

昨年度はコンディションなどの調整に悩みましたが、全体的には大きな体調の崩れなどはありませんでした。ただし期間が短い分、もう一段階、体力的にも精神的にも鍛えきることができないまま大会を迎えてしまった印象がありました。ここがまず私個人としては強く反省している点です。いいコンディションで迎えようと気を配ろうとしすぎて、かえって日頃の指導に遠慮がちになってしまった部分もありました。全国でいい戦いをするためにはまだまだ成長が必要であったし、短期間でも成長できる可能性を秘めた選手達でありましたが、この場面においてより厳しく、意識の高い要求をし続けることをしきれなかった悔いが残っています。

#### <全国大会>

埼玉県にて行われた全国大会。毎年、GWに春日部カップに参加していることもあり、再び埼玉の地に訪れることができたことに感謝をしながら大会に臨みました。春日部カップでお世話になっている埼玉県の関係者の方々にも協力していただき、リラックスしたムードで大会に入ることができました。しかし、いざ試合となると自分達の力を出し切れないうもどかしさに苦しむことになりました。

##### ・予選リーグ VS 大枝中（京都）

入り方は我々のペースでシュートも小気味よく決まったものの、相手の上背こそないものの、大きな選手を相手にしてもシュートを決めきる細かい1対1の技術(特にステップワーク)に苦しめられ、ペースを握られていきました。外中ともに高いシュート技術に翻弄され、相手のディフェンスにもヘルプやボックスアウトを徹底されて苦しめられ、追いつけそうで追いつくことができない、苦しい展開となりました。65-70。

次の試合でもう一度息を吹き返すためには、「試合内容の悪さの割には5点差での負けで終わった」という開き直しをするしかなく、予選リーグの特徴を考えた上で、状況をなんとか前向きにとらえて、スタッフ一丸となって選手達を鼓舞して臨みました。トレーナーとして帯同してもらっていた浅野さんにはここでかなり選手を奮い立たせてもらい、またアシスタントの柴山先生には合間の大枝 vs 衣笠戦を経て、次の試合を具体的にどのような

スコアで勝つべきか計算してもらい、具体的な目標を設定した上で、崖っぷちの戦いに入りました。

・予選リーグ vs 衣笠中(神奈川)

相手は総合的に身体能力も得点力もあるチームで、相手の大枝戦でも能力の高さで圧倒していました。ディフェンスもハードに足を動かす印象で、ヘルプの速いマンツーマンディフェンスが特徴的でした。試合の入り方はこちらのペースで、確実に決めるべきシュートをなんとか決め、1ピリ 20-13 とリード。しかし2ピリ以降、相手の⑤⑥の高い能力を中心とした攻めやアグレッシブなディフェンスに苦しめられ、追いつきかけられるものの、集中力をとぎらすことなく、選手それぞれの役割をしっかりとこなすことができ、59-48。目安としていた10点差で勝つことをなんとか達成し、1位通過をすることができました。

・決勝トーナメント1回戦 vs 山王中(秋田)

抽選の結果、トーナメント1回戦は秋田の山王中となりました。技術の高い選手が多く、④の高いシュート力、⑥の1対1の強さやオールラウンドなプレーが特徴的でした。試合の入りからこちらが確実に決めるべきシュートを落とすまい、ペースを握れないまま点差を離されるものの、2ピリで何とかリバウンドや速攻などから連続得点をたたき出して4点ビハインドで前半を終了。しかし、後半に入ると相手に長澤～三上のラインをうまく封じられて、相手は要の④がファールトラブルとなるものの、代わりに入った⑦の選手にアウトサイドを確実に決められ、流れをもっていかれてしまいました。プレスディフェンスを仕掛けても、相手⑥を中心に突破され、結局 38-72 で敗戦となりました。

<全国大会を終えて>

全国を3年連続で出場させていただいて、悔いの残る終わり方となってしまったことに、指導者として責任を感じています。選手達は最後まであきらめずに戦ってくれたので、今後の経験に生かし、色々なステージで力を発揮して欲しいと思っています。

最終日は観客席から試合を見つめ、ベスト4のチームのそれぞれのカラーが要所に出ていて、好ゲームが展開されていました。昨年度その舞台に立っていた分、悔しさも味わいながらも、冷静に足りない部分を考え直すきっかけにもなりました。簡単にボールを奪われない懐の深さや、当たりに負けない体の強さ、ディフェンスの反応の速さやルーズボールに対しての連動(人数をかけて必ず奪いにいく)など、意識して指導していることが、どれだけ徹底が足りないかがよくわかりました。今後の指導に生かして、全国制覇の目標を達成できるよう頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、選手・スタッフ・保護者はもちろん、私達の参加した全ての大会やあらゆる活動に関わってくださった方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。